

ヒヤリハット報告

日時：2024年7月28日 日曜日 晴れ

参加者：講師及びスタッフ：N森（山の会オフトレイル）、K口（滋賀山友会）、H谷川（滋賀山友会）、Y元（山の会オフトレイル）、Y岡（滋賀山友会）、受講生：M代（滋賀山友会）、T成（滋賀山友会）、N堀（滋賀山友会）、N村（滋賀山友会）

場所：比良・サカサマ谷（初級登山教室 沢登り実技講習） 9時45分頃
入渓点から約45分登ったあたり、5mくらいの滝を右岸側に巻く斜度約30度~40度
幅約1.2mの少し風化した岩の多い登り通路

ヒヤリハットの状況：草付きの少し狭い通路を先行して講師のN森が登り、続いて二番手に受講生N村・三番手に受講生T成・四番手に受講生N堀・五番手講師H谷川の順番で登る最中、二番手のN村が4mくらい登り切ったところで足元の石が崩れて長辺で約20cmないし30cmの落石を起こした。この時、隊列はT成の位置で下流方向から上流方向へ折り返す形になっていた。石はN村とT成のすぐ横を通過したが、勢いを増したところで四番手で登ろうとしていたN堀のヘルメットにぶつかった。落石が起きた時にすぐに声掛けを行ったが落石のスピードが速くまた沢の音であまり声が聞こえなかった（T成には声は届いた）。幅が約1.2mと狭く避けられるスペースもなかったと思われる。N堀は偶然下を見ていたが、「ラク！」の声に反応して見上げていれば顔を直撃した可能性もある。後で確認したところN堀のヘルメットが凹んでいた。位置がずれていれば他のメンバーが重傷を負う可能性もあった。

反省点：まずは落石を起こさない慎重な歩き方を身につけることが大切であるが、落石が起こりやすい場所では一人ずつ落石を避けられるだけの間隔を開けて歩くか、または細かい落石が予想される場合は衝撃を軽減するため間隔を詰めて歩く必要がある。今回は講習だったので、講師が状況を観察し、適宜注意を与えるべきであったが、序盤の沢慣れしていない状況に十分対応できていなかった。一般に後方から見た方が受講生の様子を把握しやすいため、適切な間隔で講師が後ろに付き、どの受講生にも目配り・声掛けができるよう、配置を再検討することも必要だと思われる。沢音で声が通らない場合に備えて、ホイッスル等での合図も事前に共有しておく必要もある。しかし何よりも、受講生一人一人が沢という場所の特性を十分に理解し、どこにどのような危険が潜んでいるかを察知して適切な回避行動が取れるよう、知識・技術を伝えることが、安全教室としての重要な使命であると言える。